

総合工学委員会原子力安全に関する分科会
社会のための継続的イノベーション検討小委員会
第25期・第10回議事要旨

令和4年10月27日
作成 山本 章夫

1. 日時 令和4年10月27日（金）10:00～12:00
2. 会場 遠隔会議 オンライン開催
3. 出席者 松岡委員長、越塚副委員長、小野、関村、矢川、白鳥、宮野、山本、澤田（佐倉、吉村、中村欠席）
4. 配付資料
 - 資料1 前回議事録
 - 資料2 報告案
 - 資料3 Covid-19対応
 - 資料4 意思の表出の申出書案
5. 議事
 - 1) 議事録確認（資料1）
 - ◎議事録を確認した。コメントなく了承された。
 - 2) 松岡・小野改訂案の審議
 - ◎資料2の改訂部について松岡委員長より概要説明があり、意見交換を行った。以下に内容を示す。
 - 第一章
 - ・原子力とCovid-19ではリスクがかなり異なっているのではないか。その差異をどのように記載するか。
 - ・原子力の分科会で扱っているということを前提として考える必要がある。ベースはイノベーションと原子力の組み合わせであり、社会の受け取りがベースになっているというのは良い。これまでに出た様々なレポートのキーワードを拾い上げていく必要がある。
 - ・全体のストーリーとして見た場合、第一章のカバー(言及している範囲)が十分でないと思われる可能性がある。(立ち位置が明確にならない可能性がある)。
 - 第四章(2)再生可能エネルギー
 - ・システムのイノベーションがキーワードなので、そこが伝わるように記載するのが良いのでは。具体的な例は補足程度になるのでは。
 - ・イノベーションはボトムアップ、全体を統合するのはトップダウンで、再エネはそれ

をうまくつなげる必要がある例になっている。トップダウンの実現については、例としてあげてはどうか。

- ・原子力安全としての分科会でとりまとめをやっているので、その点を頭においてまとめることが重要。原子力から完全に離れたところの議論をしているわけではない。

○(3)巨大火山噴火

- ・本節は不確かさの大きい情報を社会でどのように扱うかの一例として位置づけてはどうか。
- ・このような情報の取り扱いについて、何らかの対応について提案が出来ないか。例えば、国の機関がルールメイキングするとか。
- ・規制の現状をきちんと示した上で、社会のリスク認知のあり方について議論するのが良いのではないか。原子力ではかなり長い期間にわたる過去の活動(例えば 10 万年)を対象にしている。その上で、どこまでの範囲を議論の対象にするかを考える必要がある。

○(4)Covid-19 関連

- ・まだ全容が見えていないリスクに対して、学術が貢献できた良い例になっているのではないか。例えば、アストラゼネカ×オックスフォード大学の例。大学として意思決定するための自前のファンドを持っていたことがイノベーション(ワクチン開発)に寄与した。
- ・不慮の事態に備える冗長性/多様性の重要性を示している。そのための基礎的な研究がしっかりなされてきたことが重要。

○全体

- ・他の報告で取り上げられているのと差別化を考えると、リスク認知、というベースがあり、それについて課題(1)-(4)があるのでは。リスク認知が課題(1)-(4)の横断的要素になっているということでは。→この線に沿って、文章を見直してみる。

3) Covid-19 対応に見る課題の検討

◎資料 3 について松岡委員長より概要説明があり、意見交換を行った。以下に内容を示す。

- ・ワクチンの技術開発について注目する形で議論を進めるのが良いと思う。

4) 意思の表出の申出書案

◎ 今後の手続きについて、手順を確認した。

5) 今後の進め方について

◎ 意見交換の内容に基づき、内容の整理と検討を進める。

◎ 次回は委員長が別途メールで日程を調整する。

以上